

当院における抗サイトメガロウイルスIgM抗体陽性例の臨床背景

入汐 弘美 (大阪府立急性期・総合医療センター 臨床検査科), 西川 洋子
山中 晃代, 森本 智子, 岩田 和友子

はじめに】サイトメガロウイルス(cytomegalovirus; CMV)はヒトヘルペスウイルス科の二本DNAウイルスで、先天的および後天的に種々の感染症を起こす。今回、当院で抗CMV抗体の依頼があった検体を対象に、その陽性症例の臨床的背景を検討した。【対象および方法】対象は、2003年から2004年の9ヵ月に臨床検査科に提出された血清検体で抗CMV IgM抗体140件、抗CMV IgG抗体123件であった。測定機器はビオメリュー社製の酵素免疫測定法；ELFA (Enzyme Linked Fluorescent Assay)を原理とするパナスタで、測定試薬はパナスタアッセイキットCMV IgG パナスタアッセイキットCMV IgMを使用した。【結果】 判定結果：抗CMV IgM抗体は、140件中100件、71.4%に陽性、抗CMV IgG抗体は、123件中106件 (86.2%)が陽性であった。両項目とも陽性が120件中9件 (7.5%)両項目とも陰性が13件 (10.8%)であった。年齢分布と力価：抗CMV IgM抗体陽性例の年齢は生後11ヵ月から3歳、抗CMV IgG抗体陽性例は2ヵ月から94歳に分布していた。抗CMV IgG抗体の力価に男女差はなかった。101U/ml以上の症例はすべて16歳以上であっ

たが、4U/ml未満の陰性においても5例 (10例中) を認めた。臨床背景：抗CMV IgM抗体陽性例6例と判定保留2例の8例のうち、2例が伝染性単核球症、2例がCMV肝炎と確定された。また1例は腎移植後であり、抗CMV IgG抗体の力価は324U/mlと高値、また異型リンパ球は認めなかった。【まとめ】近年、CMVに対するAIDSなどの易感染性宿主の増加、抗CMV抗体未保有の妊婦の増加傾向がみられる。パナスタは抗CMV IgM抗体、IgG抗体を同時に測定でき、操作も簡便でありCMV感染症の診断には有用であり、さらに検討する予定である。

大阪府立急性期・総合医療センター 06-6692-1201